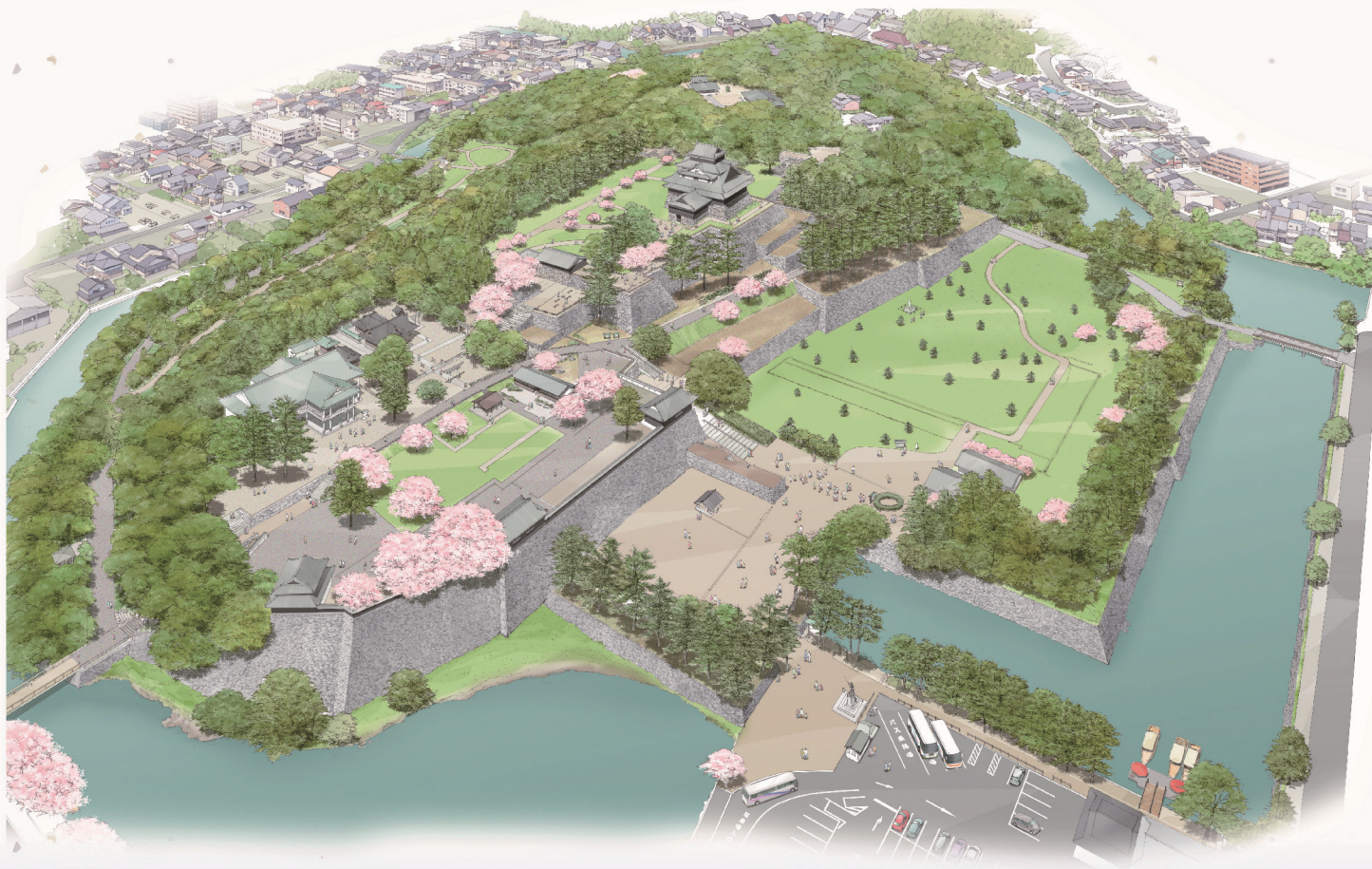


松江城を未来へ伝えるために

史跡松江城整備基本計画 概要版



令和8年(2026)3月

松 江 市

史跡松江城の概要

松江城は、宍道湖と中海をつなぐ大橋川西端の北側、島根半島の山脈から派生する丘陵先端部の亀田山につくられた平山城です。関ヶ原合戦の戦功により出雲国に入った堀尾吉晴が慶長12～16年（1607～1611）に築城し、堀尾家、京極家、松平家と藩主を替えながら、明治維新を迎えました。

明治8年（1875）に城内の多くの建造物は取り払われましたが、本丸、二之丸、三之丸の縄張りや石垣、堀といった遺構は残っており、山陰地方における代表的な近世城郭として昭和9年（1934）に国の史跡に指定されています。

一方、旧藩士や豪農の尽力によって取り壊しを免れた天守は、「慶長16年」と記された祈祷札が発見されたことで完成年が明らかとなり、平成27年（2015）に国宝指定されました。

計画策定の経緯と目的

戦後、城山公園一帯は都市公園（歴史公園）としての整備が進みました。多くの市民や観光客が訪れる一方、次第に石垣の破損や建築遺構の埋没などが問題になりました。市は種々の対策を行い、平成5年（1993）には「史跡松江城環境整備指針」を策定し約20年をかけて整備を進めた結果、ほぼ現在のような姿になりました。

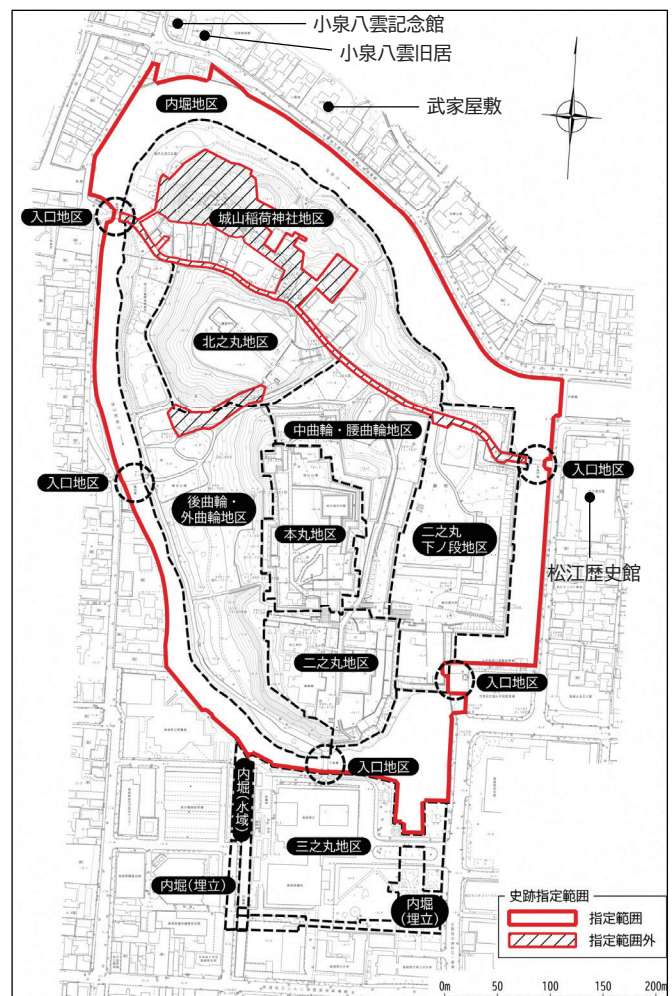
その間、平成29年（2017）に「史跡松江城保存活用計画」を策定して城の管理を進めてきましたが、すでに9年が経過し、石垣の修理、園路やサインの更新などが喫緊の課題となってきたことを受け、同計画をベースとして整備と活用を計画的に進めることを目的として、「史跡松江城整備基本計画」を策定することとしました。

計画の対象範囲と地区区分

本計画の主たる対象範囲は、図の赤線で囲った「史跡指定範囲」の内側です。

史跡内を「本丸地区」「二之丸地区」「二之丸下ノ段地区」「中曲輪・腰曲輪地区」「北之丸地区」「後曲輪・外曲輪地区」「城山稲荷神社地区」「内堀地区」及び「入口地区」の9地区に区分し、地区ごとの現状や特性を踏まえたうえで、各地区に応じた計画を立案しています。

また、松江城周辺には松江歴史館、武家屋敷、小泉八雲記念館・旧居など、松江城と歴史的、文化的に関連の深い施設が立地していることから、計画の検討に当たっては、必要に応じてこれらの存在に配慮しています（サイン計画における動線計画など）。

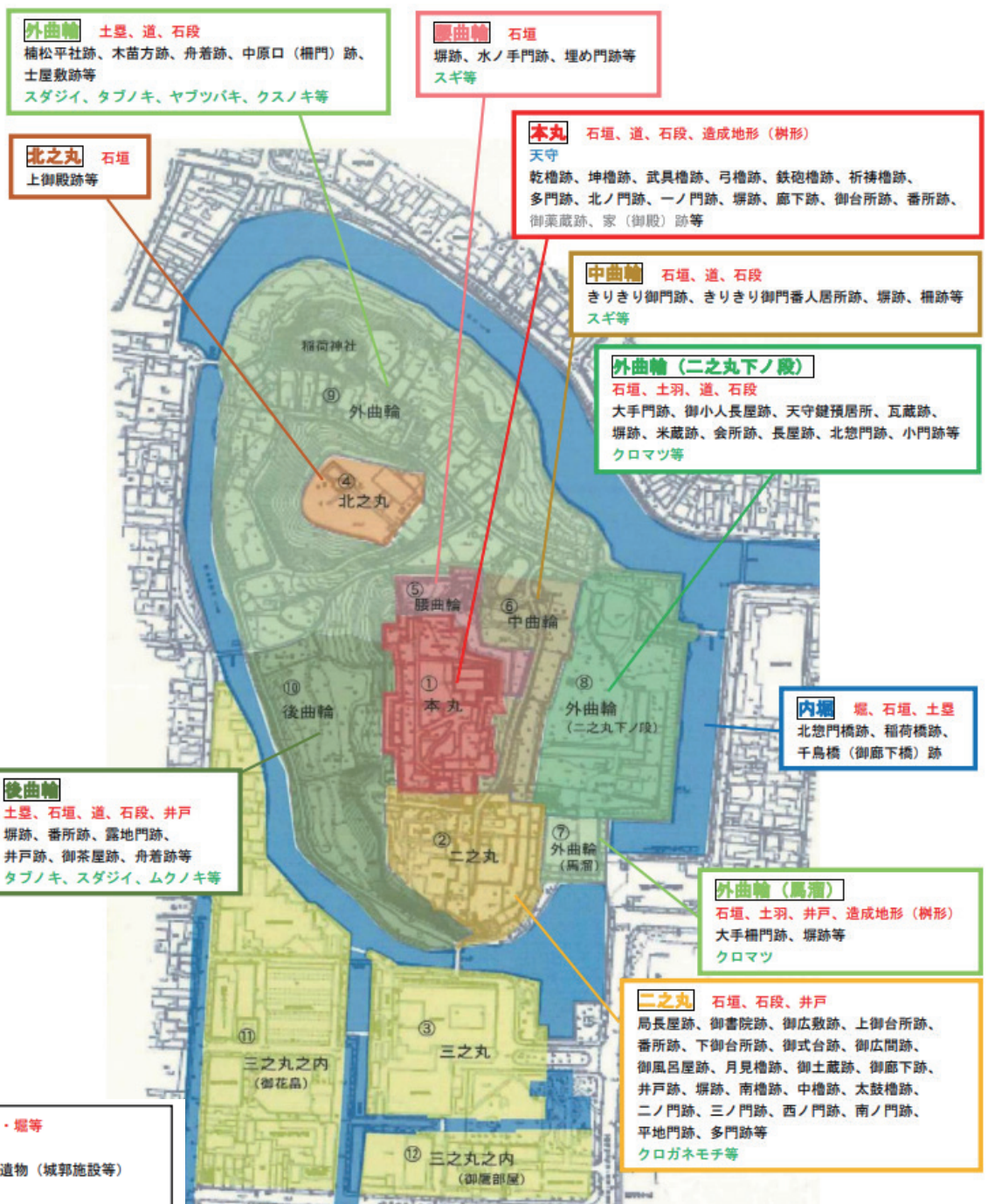


史跡松江城の本質的価値と構成要素

本質的価値

- ア 戦国武将の堀尾吉晴・忠氏父子が、宍道湖畔に位置する亀田山を新たな居城として計画し、吉晴が実質的な指揮を執って慶長12～16年（1607～1611）頃にかけて築城した平山城。
- イ 亀田山頂上に本丸を置き、周囲に二之丸、腰曲輪、中曲輪、外曲輪（二之丸下ノ段）、後曲輪、北之丸、外曲輪を配置して周囲に内堀を巡らせ、内堀を挟んで三之丸を配置する。曲輪内には、石垣、土塁、門、櫓などのほか、天守や御殿をはじめとする施設が建設され、軍事施設としてだけでなく、松江藩の統治拠点としての役割も果たした城郭。
- ウ 堀尾氏により慶長年間に築城された縄張りや石垣などが、京極氏、松平氏と藩主が移り替わっても基本的に守り伝えられて現在も残る、山陰地方における代表的な近世城郭。
- エ 権力と城下町の繁栄を象徴する四重五階地下一階の慶長年間創建の天守が重層的な石垣の上に現存する城郭空間が、近世城郭としての特徴を顕著に表す。

本質的価値の構成要素



整備基本計画（重点分野）

※ここでは、重点分野に関連する主な整備計画・整備箇所のみ掲載しています。詳しい内容や、重点分野以外の計画については、計画書本編をご覧ください。

①石垣保存計画

- 石垣の保存は、これまでに実施した石垣の診断結果に基づき、日常管理→保護措置→石垣修理の流れで行います。
- 日常管理**では、目視や測量機器を用いて石垣の状態を観察するほか、雑草の除去、亀裂等の有無の確認などの維持管理を行います。
- 日常管理で異常がみられた場合などは、排水対策、樹木管理、堀内の波消し対策などの**保護措置**を講じます。
- 石垣の修理**が必要と判断された場合は、専門家の助言を得ながらその要否等を検討し、次の措置を講じます。
 - 【応急的措置】立入禁止区域の設定、落石防止ネットの設置、石垣支障木の伐採等
 - 【部分補修・補強】土嚢やジャカゴ等の設置、間詰石の補充、捨石の設置（堀石垣）等
 - 【解体修理】大きな変動や落石、亀裂等が確認された場合、地震等天災による崩壊が生じた場合に検討します。

- 取組みの例（主たる見学動線沿いの石垣）

- A** 動態観測
- B** 立入制限
- C** 解体修理
- D** 落石ネット（設置済み）

②園路整備計画

- 現況の問題点の多くが表層（舗装）剥離なので、整備の基本方針は再舗装による表層の回復とします。
- 必要に応じ、園路に付帯する側溝の整備を検討します。
- 歩行者専用区間と、管理用道路など歩行者と車両の通行が想定される区間とに分け、前者は歩きやすい土系舗装を、後者は荷重に耐えられるアスファルト系舗装などを採用し、色彩も周辺環境との調和に配慮します。
- 幕末期の城道と重なる区間でサイン等によりその旨を明示したり、石垣に囲まれた「枳形」を意識した整備を行うなど、往時の雰囲気を感じられる整備を検討します。
- 本丸まで車椅子で行けるような、バリアフリールートの整備可能性について、調査検討を深めます。

- 取組みの例（舗装改修は全域にわたるため区間は割愛）



- A** 城道を想起させる整備
- B** 枳形を想起させる整備



※ベースの下図は整備基本計画図（イメージ）です。

③植生管理計画

- 松江藩政の拠点の近世城郭として作られた植生景観に関する調査研究を行い、その歴史的植生景観の保全を図ります。
- 一方、近年では倒木等の問題が顕在化していることから、園路沿い等を中心に樹木の危険度診断を進め、計画的な観察や点検を行うとともに、必要に応じて伐採・剪定等を行います。
- 石垣、園路、排水設備への影響を調査し、対策を講じます。
- 本丸のサクラや椿谷のツバキ類など、修景等の目的で植栽・記念植樹された樹木は、その目的が達成されるよう、剪定や樹勢回復措置等によって適切に管理します。
- 病虫害被害の予防と拡散防止対策を適切に行うほか、サギ類等による糞害防止対策に関する調査研究を進めます。
- 天守の眺望点としてビューポイントを設定し、樹木の成長により視界が妨げられる場合は、伐採や樹高調整を検討します。
- 取組みの例
 - a** 危険度診断の実施
 - b** ビューポイント（案）

※本丸、二之丸、二之丸下ノ段等は実施済み

④サイン計画

- 「案内」「誘導」「解説」「記名」「注意・規制」の各機能に応じたサインを適切に配置します。
- 老朽化したサインの更新と、デザインの統一を進めます。
- 言語は日本語と英語を基本とし、QRコードを活用したWEBサイト連携により、他言語への対応や多彩な情報提供を行います。
- 見学者や観光客が多い史跡入口の城内案内や、重要分岐点での的確な誘導に資するサインを新設・更新し、わかりやすさの向上と、松江歴史館等の史跡外を含む広域移動を支援します。
- 取組みの例
 - a** 城内案内サイン整備
 - b** 重要分岐点の誘導サイン整備

⑤排水設備計画

- 現状で十分解明されていない史跡全体の雨水排水体系を明確化し、円滑な流下能力の確保方を検討します。
- 側溝がない園路では、園路整備に合わせた追設を検討します。
- 降雨後の滞水や、石垣に悪影響を及ぼす排水不良の原因調査を進めるとともに、遺構への影響に配慮した対策を検討します。
- 取組みの例
 - A** 石垣の排水対策
 - B** 降雨後の滞水対策

事業推進体制

史跡松江城の整備に当たっては、松江市が中心となり、国、県、大学、史跡松江城整備検討委員会等の助言・指導を得つつ、指定管理者、市民、企業、NPO、ボランティア等の幅広い主体との協働により、その推進を図っていくこととします。

事業スケジュール

今後の分野別の事業スケジュールは次のとおりです。なお、重点分野以外については長期的な対応を想定していますが、条件が整えば10年以内（短・中期）での事業着手もあり得ます。

分野区分	対処措置の概要		短期					中期					長期
			2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036～
重点分野	石垣保存計画	動態観測	→										
		解体修理		発掘調査	基本設計	実施設計		解体修理					
	園路整備計画	改修・補修工事					基本設計	実施設計		改修・補修			
		付帯側溝の補修											
	植生管理計画	危険木調査・管理	台帳作成		鎮守の森診断		フォローアップ診断						
		危険木対策		伐採・剪定									
		石垣支障木対策											
	サイン整備計画	サインの更新、新規設置											
	排水設備計画	排水側溝の補修				現況詳細調査	側溝の補修工事						
	重点分野以外	遺構保存計画	→										
建物修復・復元計画		→											
遺構表現計画		→											
防災・防犯計画		→											
管理・便益施設計画		→											
公開活用施設計画		→											
周辺環境保全計画		→											
地域関連文化財等整備活用計画		→											
整備関連調査計画		→											
公開活用計画		→											
管理運営計画	→												

- 史跡松江城整備基本計画の詳しい内容は、松江市ホームページに掲載している計画書本編をご覧ください。（「史跡松江城整備基本計画」で検索）
- 国宝松江城天守は、令和9年度（2027）から大規模な保存修理工事を行います。安全に十分配慮するとともに、公開への影響が最小限となるよう配慮しながら実施してまいります。
- 松江のシンボル松江城を末永く保存・活用していくため、今後とも皆様の幅広いご理解とご協力をお願いいたします。